

【連載】※月1掲載

船釣りの作法

釣技
釣技
釣技
釣技

其の十六 福岡県・玄界灘の落とし込み

高橋哲也、落とし込みの技。



ヒラマサの魚影の濃さは国内随一



◀イワシやアジを掛ける繊細さと大型魚に耐える強さ。高橋さんは強度に重きを置いている



▲ドラッグをきつく締め、竿の曲がりでショックを吸収しながら根をかわし、安全圏まで耐えたらドラッグを緩めてハリスをいたわりながらヤリトする



▲道具を通して伝わってくる手応えで相手を想像し対応。このときの正体はヒラマサ



▲80キロほどありそうなマカジキは船べりに寄せてリリース

「こんなことは滅多にありませんよ」北九州市・脇田漁港の天力丸・藤野勝久船長が驚きの声をあげたのはマカジキが跳ねたときだった。

今年の玄界灘はウルメイワシとヒラマサなど青物の回遊が遅れていた。そして高橋哲也さんが満を持して訪れた10月中旬も状況は不安定、イワシの反応は散発的だった。

「落とし込みは釣り方は合理的だけど、仕掛けは不合理」そう語る高橋さんは、イワシの掛けやすさと大物を獲れる強度という相反する要素のうち強度を優先、一般的な釣り人より太い仕掛けを使う。イワシの反応が少ないこの日も20号と18号を選択。釣具店で売れ筋だった14号には目もくれない。

潮の流れが速いとき、イワシは濃い群れを作って一定方向を向いて泳ぐ。そんなときは掛かりやすい。逆に潮が緩いとき、チャンスは一瞬になることが多い。

高橋さんは海中を想像しながら、ビーストマスター2000の探見丸スクリーンとアルシエラ落とし込みMH/H25の竿先、道糸を見ながら巻いては落とし、を繰り返す、太仕掛けでもウルメを掛けていく(詳細は次頁)。

そして朝方は少なかった反応が増えて急にイワシが付くようになった……と思った直後、高橋さんが掛ける。

海面に浮かせたのは大きな、丸まる太ったワラサ。安堵する瞬間だが、海の中の変化を感じている高橋さんは間髪入れずに投入、次投で6キロはありそうなヒラマサを釣り上げた。

マカジキとのファイトは1時間を超えた



○高橋哲也 沖繩県在住。全国各地の磯、船釣りの世界で多くの大型魚を仕留めてきた。単に釣るだけでなく、広い目で海を見るカリスマアングラー。

タックルの作法

イワシにも大物にも通用する
タフ＆コンパクトなタックルを。

【ビーストマスター2000】

「一見、落とし込みには小さく感じるかもしれませんが、昔の3000番や4000番以上の実力を持っているのがビーストマスター2000です。糸巻き量、巻き上げパワー、ドラッグ性能、どれをとっても十分なうえ、探見丸スクリーンにより手元でイワシの反応が出るタイミングをはかることができ、スプールをフリーにした際の仕掛けの落下速度も早い。ドラッグの強さといえば、今回、1時間以上マガジキとファイトをしましたが、サーモアジャストドラッグ制御によりドラッグが熱で弱ることもありませんでした（高橋哲也）」

●SPEC ギヤ比=5.1 最大ドラッグ力=15kg 自重=690g 糸巻き量PE=3号-500m、4号-400m、5号-300m 最大巻上長=70cm/ハンドル1回転 ハンドル長=60mm 実用巻上持久力=9.5kg 最大巻上速度215m/分



▲高温時も強力なパワーを発揮、寿命も長いプラシスモーター「ギガマックスモーター」を搭載。巻き上げを繰り返して、大型と対峙する落とし込みで高いポテンシャルを発揮する

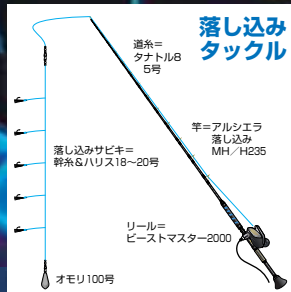
▲「スーパーフリースプール」によりクラッチオフ時にガタつきなく軽く回転。仕掛けを素早く落とすことが可能。また、「モーター&クラッチ連動機能」により電動巻き上げ時にクラッチをOFFにするともーターもOFFになる



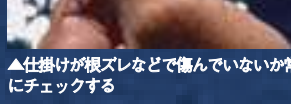
▲ギアシステムを大幅に強化、脅威の耐久性を実現した「強化ギアシステム」により、断続的な巻き上げにも対応、タフな使用でも長寿命。最大ドラッグ力は15kg、大物にも安定した力を発揮する



▲探見丸の情報をディスプレイに表示する「探見丸スクリーン」は竿を操作しながら最小限の視線移動で海中の今を知ることが可能。※すべての探見丸搭載船で使用可能



▲BTマスター、探見丸子機とのセットで実力を100パーセント引き出す



▲仕掛けが根ズレなどで傷んでいないか常にチェックする



▲落とし込みで人気の高いヒラメ。アジとおぼしき海底の反応で即掛かりした

食の作法

ヒラマサのカルパッチョ
~いつもの刺身に飽きたら~



3日寝かせたヒラマサで作るカルパッチョは旨味と滑らかな舌触りが絶妙



- ①ヒラマサを三枚におろしてサク取りする
- ②サク取りした身を薄めの平づくりに。包丁全体を使って一度に引くと、滑らかな食感が得られる
- ③切り身を放射状に並べ、生バジル、ピンクペッパーで彩り
- ④オリーブオイル、岩塩を適量かけ、好みでスダチを付け合わせればできあがり



「船釣りの作法」動画公開中。
YouTube SHIMANO TV
公式チャンネルにてご視聴いただけます。

© Presented by SHIMANO 【取材協力】北九州市脇田漁港・天力丸



【竿先は目線の位置】
イワシの群れへ落とし込んでいくときは竿先を少し上げて竿先の振れや道糸の動きがよく見えるようにする



【道糸の変化を感じ取る】
仕掛けを落としつつ指にリールの前で道糸に指を添え、振動や張りの変化を感じ取る。高橋さん独自の構え

【糸フケを出さない】
反応を通過させるまではもちろん、反応へ仕掛けを落としつつはサミングして糸フケを抑え、変化を察知する



【ウルメイワシ】
落とし込みで最良とされるエサが秋〜冬に回遊してくるウルメイワシ。ウロコが剥がれやすく海中でアピールになる

【明確な当たりではなく変化を】
仕掛けを落としつつイワシが掛かると竿先は震えたり戻ったりすることが多い。仕掛けを止めて真下に引くあたりではなく、落としつつの変化に注目する



【ドラッグを強く、竿を曲げる。】
大型魚を食わせたら、竿はしっかりホールドしたまま、曲げる。両手で強く引いて少し出るぐらいのきつめのドラッグとリールのパワーで根から魚を離し、海底から15メートルほど上の安全圏まで上げたら緩めるのが高橋さんのスタイル

【アルシエラ落とし込みMH/H235】
「柔軟な穂先からしなやかに曲がり込んで元でしっかり受け止める竿。私は竿を曲げて獲るスタイルが好きなので、MH/Hは楽しめました（高橋哲也）」
●SPEC 全長2.35m 2本巻ぎ 仕舞寸法205.5m 自重550g 先径2.3mm オモリ負荷60~200号 カーボン含有率69.2%



ブリの若魚、ワラサは落とし込み定番の魚



イワシを掛ける作法

イワシはアタリを取るのではなく、変化を感じ取る。

●イワシが掛かるのは仕掛けが落ちるとき。そのため集中するのは仕掛けを落とし込んでいくときで、巻き上げは電動で速やかに行う。高橋さんはイワシがハリに掛かったシグナルを竿先だけでなく、落下速度の変化や道糸の振動などから察知。いわゆる「アタリ」を見るのではなく「変化」を感じ取っている。



【右端を注視！】
探見丸スクリーンや探見丸子機は右端を注視。反応が濃く出ても掛かからないときや反応がなくなったときは、いったん反応の上まで巻き上げて上空待機。新たな反応が右端に出る瞬間を狙って落とし込む

潮が速くなったときのいわゆる時合だが、その時間は短かった。もし、イワシが付かないからと細い仕掛けにしていたら、ヒラマサを釣り上げるチャンス逃していたかもしれない。潮が緩んではマダイやヒラメ、ハタ類などに期待を寄せられるも、この日はフエフキダイやタテフエダイなどレアな魚ばかりが掛かり、何がいつも



▲竿先はしなやかに、元はしっかりしている

と違うようだった。その極め付けがマガジキであった。1時間以上に及んだマガジキとのバトルは、数回船に寄せ、仕掛け上部が見えたところでもリリース。